序

川崎市公害研究所年報第１０号を発行することになりました。内容は昭和５７年度におけるものを中心としていますが，１０号は一つの節目になります。

昭和４６年１０月に公害研究所が衛生研究所内に間借りして発足し，当時の激しい公害の嵐の中で，試験検査，調査研究等行政のニーズに対応してまいりました。昭和４８年１２月に公害研究所の建物が現在地に竣工し，昭和４９年３月に移転，新しい所で業務が開始されました。

昭和４９年２月に山口裕所長（現，昭和大学医学部衛生学教室，助教授）によって年報第１号が発行されてから満１０年を経過いたしました。

第１号から第１０号までを通覧しますと，ほとんどが地味な調査研究，分析手法の開発研究などですが，そのほかに日常の多量な試験検査の実績が含まれていることをしみじみと思い出すのであります。また，牛歩のように見えますが，研究所の施設，陣容もなんとか充電を重ね，そのポテンシアルを高めつつあることをひそかに感じるとともに，使命の重大性を深く感ずる次第であります。

激しい公害の時代が去ると，公害研究所に対する一般の認識も“清浄な空気”のようなものかも知れません。人々は平素，空気の存在を意識して呼吸しているでしょうか。汚れた空気，または呼吸困難など，異常な時に空気の存在をあらためて意識するものではないでしょうか。

平素，地道な試験研究にはげみ，環境公害対策に役立つとともに常に充電に心がけ，５７年の下布田小学校ガスもれ対策に即応したように，急を要する場合にも役立ちたいと職員一同念願しています。

資料中の「川崎市公害研究所の使命とあり方」に関する記録は，昭和５８年度におけるものです。第１０号にふさわしいものと考え，本号に掲載しました。

第４号から第１０号まで，７回にわたり年報に序文を書く機会のあったことは私にとっても誠に光栄であり，忘れ得ぬ思い出であります。関係各位に感謝申し上げる次第であります。

昭和５９年３月

川崎市公害研究所長

寺　部　本　次